

# カーボンレポート

## 東京都低炭素ビル実績表示

この書面は、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例に基づく「地球温暖化対策報告書」(都内の中小規模事業所を対象)により東京都に報告したCO<sub>2</sub>排出量の実績等を、地球温暖化対策指針に基づいて表示するものです。

No. A1077-0157

報告書提出  
事業者名 三井住友信託銀行株式会社

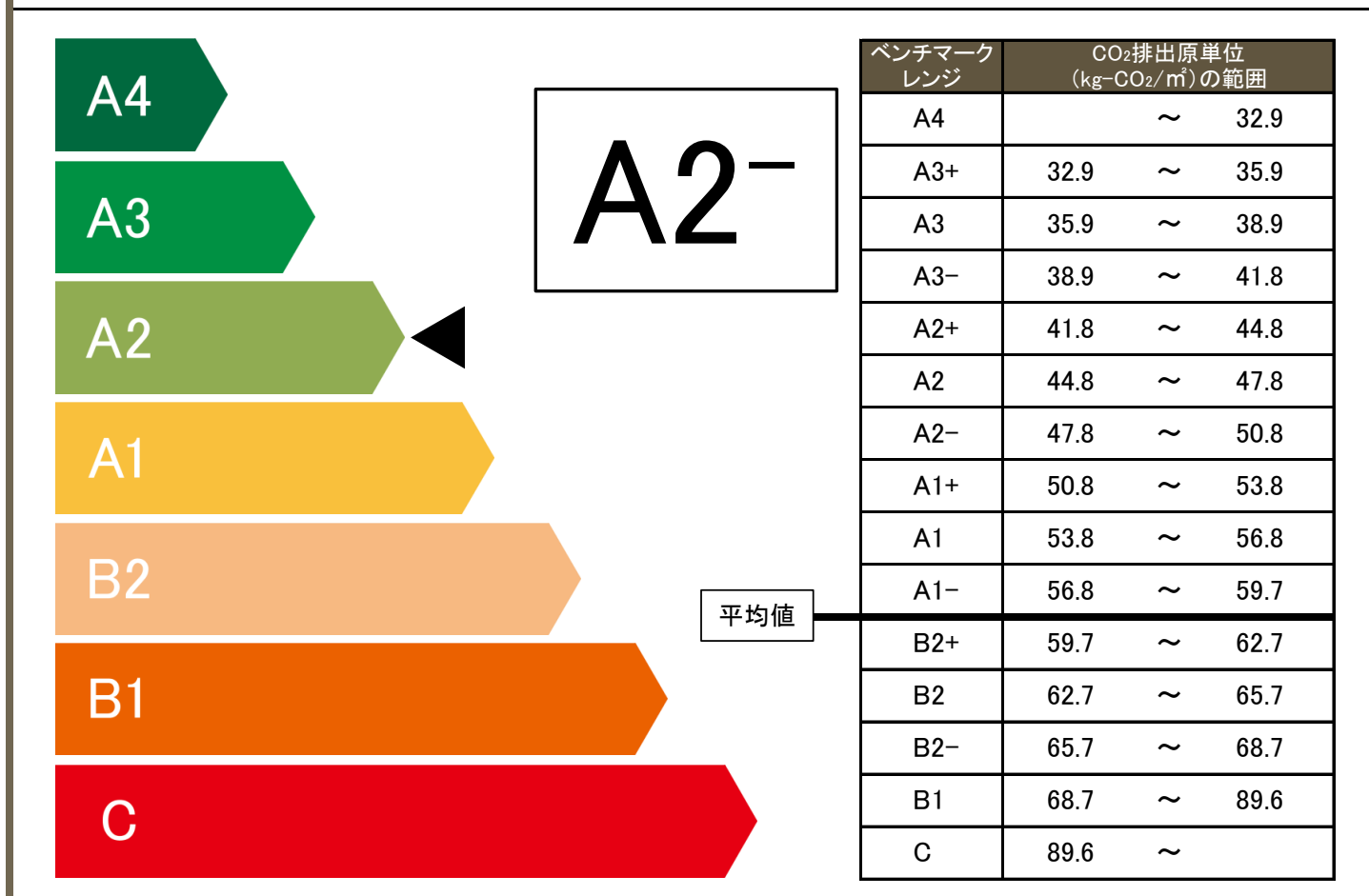
事業所名 NOF渋谷公園通りビル

住 所 渋谷区宇田川20-17



実績年度	年間CO <sub>2</sub> 排出量	延床面積	CO <sub>2</sub> 排出原単位 (延床面積当たりの年間CO <sub>2</sub> 排出量)	主たる用途
2014 年	269 t	5,358.55 m <sup>2</sup>	50.2 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	事務所

### ベンチマーク区分:テナントビル(中規模、オフィス系)



※ベンチマークは、都内の中小規模事業所のCO<sub>2</sub>排出水準(CO<sub>2</sub>排出原単位の水準)を15段階で示す指標です。(詳細は、『自己評価指標(ベンチマーク)解説書』(東京都環境局発行)を参照)

※CO<sub>2</sub>排出水準は、ビル側の地球温暖化の対策の推進状況だけでなく、ビルの稼働状況や入居者の取組等の影響を含むものです。

※本書面の記載内容は、第三者の検証を受けたものとは限りません。また、報告書提出事業者の事業所範囲についての内容であるため、区分所有等の場合、基本的にビル全体の内容と一致しません。共有の場合は、持分割合に応じたものとなっています。

◆ 地球温暖化対策の実施状況

	重点対策	その他対策
	対策名	対策名
組織体制の整備	温暖化対策推進担当の配置	所内の温室効果ガス排出量を集計
	テナントにエネルギー使用量提供	テナントへの温暖化対策協力依頼
		使用量に応じた料金体系の採用
エネルギー等の使用状況の把握	自ら入手可能な情報に基づく把握	主要設備の使用状況の把握
	エネルギー使用量の前年度比較	
運用対策	共用部照明のフロアごとの管理	照明スイッチに点灯範囲を表示
	フロア共用部の温度の把握・設定	空調機スイッチに空調範囲を表示
	共用部のフロアごとの空調の管理	事務用機器を業務終了時に停止
		便座ヒーター等温度の季節別設定
		屋内駐車場換気の不要時間の停止
設備保守対策	空調フィルターの清掃・点検	換気フィルターの清掃・点検
		その他設備の定期的な保守点検
設備導入対策	高効率照明器具の採用(屋内)	照明点灯範囲の細分化
	高効率パッケージの採用	照明用人感センサの採用
		高効率ボイラの採用(給湯用)
		高輝度誘導灯の採用

上記は、本事業所が実績年度に実施した対策です。

◆ 補足説明(自由記入)

- 建物概要 竣工年月:1987年9月 建物構造:SRC造 地上8階 地下2階
- 省エネ改修
  - ・LED照明器具へ更新
  - ・トイレ照明用人感センサー導入
  - ・高効率PAC空調へ更新
  - ・節水型トイレへ更新 等

◆ 注記

ビルのCO2排出原単位(延床面積当りの年間CO2排出量)は、ビルの断熱性能、設備・機器のエネルギー効率及び運用・保守管理状況を、総合的に示すビルの省エネルギー指標です。東京都が提供するベンチマークは、中小ビルのCO2排出原単位の平均値を用途別・規模別に示しており、その平均値から個々のビルのCO2排出原単位がどの程度離れているかをみることで、当該ビルの低炭素レベル(省エネ性能)を評価することができます。

なお、ビルのCO2排出原単位は、空室率、駐車場や電算室の有無、稼働時間、入居テナントの種類や入居テナントのエネルギーの使い方等によっても影響を受けます。ベンチマークは、こうした様々な要因も含まれた平均値を示していますが、省エネの取組以外の要因が著しく大きい等の場合、評価者は、これらの要因がどの程度、CO2排出原単位に影響を与えているかを考慮する必要があります。詳細は、『自己評価指標(ベンチマーク)解説書』(東京都環境局発行)をご参照ください。